

UOS 関西支部様での新情報システム学序説講演と ISSJ 紹介の報告

2015年10月27日

新情報システム学体系調査研究委員会 委員 渋谷照夫

UOS 関西支部様の定例会において、招待講演として、当学会で発刊しました新情報システム学序説の説明と ISSJ 活動の紹介を実施いたしました。その概要を以下に報告させていただきます。

◆UOS 関西支部活動：

UOS（ユーオス）は日本IBM社のビジネスパートナー会社様から構成される団体で、ユーザーの視点でのITサービスの提供を目指し、営業、協業、技術者育成などの観点で連携を図っている。全国5支部（関東・中部・関西・九州・北海道の5支部）体制で約300社から構成される。今回はこの中の関西支部の月例定例会で当学会の紹介の場をいただいた。

◆開催日：平成27年10月7日（水）15時30分～18時

◆会場：日本IBM株式会社 大阪事業所
1号館4階 10417 情報メディア学科演習室

◆招待講演（16:50～17:40）：

- ・人間中心の情報システムを目指して ～新情報システム学序説のご紹介～
講師：情報システム学会 理事 渋谷照夫氏
- ・ISSJ 情報システム学会のご紹介 ISSJ 事務局長 魚田勝臣氏

◆講演主旨と概要

- ・新情報システム学序説発刊の経緯：

2009年度新情報システム学体系調査研究委員会発足し、2013年4月に序説執筆体制確立し推進、そして、2014年2月に新情報システム学序説を発刊した。

- ・序説の目的と基本的考え方：

近代産業は、科学と技術のスパイラルな進化により発展してきた。ところが情報システム産業の場合、科学的な基盤がなく、技術は経験的に蓄積されてきている。このため他分野のように初等中等教育に基礎をもつ体系的な専門教育ができず、情報システム産業は労働集約的との批判を受け続けている。問題の抜本的解決のため、情報システム学会では、情報システムに関して基本概念、歴史、理論、実践の方法論を体系化し明確にした、言わば親学問をつくることを意図し、この度『新情報システム学序説』を完成した。

・第1部～第3部を紹介（第1部に多くの時間を割いた）

第1部では、基礎情報学にもとづいて情報概念を示し、また、人間の情報行動の基本モデルを明らかにした上で、人間が歴史的にどのように情報システムをつくってきたのか、そして課題は何かを中心に紹介した。

第2部では人間の認識力限界を意識した情報システムへのアプローチと新しい優れた情報システムをどのように構築し利活用していくかについて、観点を中心に紹介した。

第3部では、特に16章の情報システム教育のデザインコンセプト（論理思考、概念・抽象化思考、言語重視・・・）について紹介した。

・今後の取り組みについて

新情報システム学・本論編の研究、編纂の方針について、新情報システム学の普及、教育展開について、そして、情報システム産業の将来人材イメージについて述べた。

全体として、120万人を超える専門家はもちろん、広く国民すべてが持つべき、情報と情報システムに関する基本的な考え方として、序説を、UOS関西地区の皆様にご紹介した。

◆参加者数：30名強

◆備考（御礼）：

本講演会の際は、株式会社ミガロ・上甲様のご紹介、および、当学会の金田理事、魚田事務局長などのご尽力により実現されたことに、この場を借りて御礼申し上げます。

◆説明資料：

「人間中心の情報システムを目指して ～新情報システム学序説のご紹介～」
「情報システム学会紹介の小冊子」：配布

◆所感と今後への意見：

新情報システム学序説の目的や内容が、本来、情報サービス産業に携わる方々が取り組むべき本質的なテーマであり、関連が強いこともあり、全体にその意義、背景、内容について、聞いていただけたと思われる。

ソフトウェア開発会社の方々が多く、理解していただけるか心配でしたが、懇談会では、4～5名の方々から、新情報システム学の考え方について、「この内容は正論である。」「この仕事（情報サービス関係）を進めて行く中で拠り所となるものがなくてこの内容について、今後、勉強したい。」「目からうろこ、

為になりました。」などのお言葉を頂きました。

ただ、この内容を現実の場に展開してゆくには具体的にどうすべきかの課題提起的な意見も頂きました。当委員会として、今回は時間の関係で説明のみでしたが、対話型で相互に議論し理解し合いながら進める場が必要と考えています。

講演の中でも申し上げましたが、新情報システム学を分かり易く纏めたチュートリアルPPT文書（約180頁）も12月には完成予定で用意するのでそれも活用して、新情報システム学を普及、展開させてゆきたいと思えます。

なお、少し時間がかかりますが、近い将来の情報システム学会・関西支部の設立についても検討して参りたく存じます。

今後も新情報システム学の内容を更に進化させながら、引き続きこのような説明と討議の場を学会や企業、自治体、教育団体などに提供してゆくことが重要であると考えます。また、それにより当学会の理念や活動成果を広め、情報社会の健全な発展に貢献してゆけると確信する次第です。

◆問合せ先：

<新情報システム学体系調査研究委員会：渋谷照夫>

e-mail: shibu_t4771■kym.biglobe.ne.jp（■を@に置き換えてください）

以上